

## 大都市データ

川崎市をはじめ20の政令指定都市と東京都区部の21大都市は「大都市統計協議会」を設置して、各都市の各種統計情報を集約し、毎年「大都市比較統計年表」を作成、発行しています。

ここでは、「大都市比較統計年表(平成25年)」などをもとに、主要な統計情報からみた川崎市及び各都市の特徴をまとめました。



# 1

## 人口・世帯数及び面積

●人口密度は高く大都市で第3位

都 市 名	政令指定都市への移行年月日	区数	人 口 (人)	世帯数 (世帯)	面 積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )	昼夜間人口比率 (常住人口=100)	平成26年度当初予算額 (百万円)
1	東京都港区	—	9,143,041	4,909,980	622.99	14,676	130.9	6,666,708
2	東京都中央区	—	2,686,246	1,364,161	223.00	12,046	132.8	1,662,742
3	横浜市	昭和31.9.1	<b>1,461,043</b>	<b>687,843</b>	<b>144.35</b>	<b>10,122</b>	<b>89.5</b>	<b>617,117</b>
4	大阪市	昭和31.9.1	3,710,991	1,631,395	435.21	8,525	91.5	1,418,208
5	名古屋市	昭和31.9.1	2,276,590	1,045,642	326.43	6,974	113.5	1,057,439
6	名古屋市	平成15.4.1	1,251,549	526,117	217.49	5,755	92.8	464,900
7	名古屋市	平成18.4.1	840,016	353,602	149.99	5,600	94.4	379,696
8	福岡市	昭和47.4.1	1,519,349	754,621	341.70	4,446	111.9	776,340
9	福岡市	平成4.4.1	965,679	420,614	272.08	3,549	97.5	375,300
10	神戸市	昭和31.9.1	1,537,864	695,269	557.02	2,761	102.6	707,054
11	神戸市	平成22.4.1	722,931	316,320	328.82	2,199	87.9	257,600
12	名古屋市	昭和38.4.1	963,259	429,123	489.60	1,967	102.7	542,102
13	名古屋市	平成24.4.1	740,204	315,318	389.54	1,900	103.1	288,910
14	京都市	昭和31.9.1	1,469,253	698,749	827.90	1,775	108.5	739,507
15	京都市	昭和47.4.1	1,942,648	932,974	1,121.12	1,733	100.6	884,750
16	京都市	平成元.4.1	1,073,242	491,423	785.85	1,366	107.3	558,106
17	仙台市	昭和55.4.1	1,185,656	529,228	905.41	1,310	102.1	585,581
18	新潟市	平成19.4.1	808,143	327,319	726.10	1,113	101.8	366,300
19	新潟市	平成21.4.1	714,583	313,371	789.92	905	104.2	281,177
20	浜松市	平成19.4.1	791,191	307,253	1,558.04	508	99.7	274,100
21	静岡市	平成17.4.1	706,551	290,748	1,411.93	500	103.3	276,200

\*人口・世帯数は平成26年10月1日現在。但し、新潟市、岡山市の世帯数は平成26年9月末現在の住民基本台帳人口を掲載

\*区数・面積は平成26年10月1日時点で、面積は各自治体がHP等で公表している数値

\*昼夜間人口比率は平成22年国勢調査

\*平成26年度当初予算額の東京都区部は、「都」の数値

### データチェック

人口及び世帯数が最も多いのは東京都区部で、次いで横浜市、大阪市の順となっており、川崎市は人口・世帯数ともに第9位となっています。また、面積が最も広いのは浜松市で、次いで静岡市、札幌市の順となっており、川崎市は最も狭く第21位です。人口密度では東京都区部が最も高く、次いで大阪市、川崎市の順となっています。

昼夜間人口比率をみると、大阪市の最も高く、次いで東京都区部、名古屋市の順となっています。一方、昼夜間人口比率が最も低いのは相模原市で、次いで川崎市、横浜市の順となっています。

# 2

## 人口動態

●自然増加数が大都市で第1位

(単位:人) (平成25年中)

都 市 名	人口増加 (自然増加+社会増加)	自然動態			社会動態			人口増加比率 (人口増加数/人口)		
		自然増加	出生	死亡	社会増加	市(都)外との移動	市(都)内移動		その他の増減	
1	川崎市	9,973	4,491	14,575	10,084	5,482	8,742	—	▲ 3,260	0.69%
2	福岡市	14,456	4,009	14,918	10,909	10,447	12,135	17	▲ 1,705	0.96%
3	東京都区部	64,767	1,901	78,964	77,063	62,866	55,931	1,328	▲ 5,607	0.71%
4	横浜市	6,892	1,627	9,741	8,114	5,265	5,320	14	▲ 69	0.65%
5	仙台市	6,223	1,535	30,753	29,218	4,688	600	86	▲ 4,002	0.17%
6	広島市	2,411	1,448	11,210	9,762	963	1,551	—	▲ 588	0.20%
7	さいたま市	8,698	1,405	10,944	9,539	7,293	7,883	—	▲ 590	0.70%
8	熊本市	947	814	7,272	6,458	133	133	…	…	0.13%
9	相模原市	1,044	457	5,735	5,278	587	787	—	▲ 200	0.14%
10	岡山市	898	322	6,752	6,430	576	1,644	—	▲ 1,068	0.13%
11	千代田市	632	66	7,771	7,705	566	1,373	—	▲ 807	0.07%
12	浜松市	▲ 3,328	▲ 396	7,169	7,565	▲ 2,932	▲ 128	1	▲ 2,805	▲ 0.42%
13	名古屋市	4,003	▲ 551	19,932	20,483	4,554	6,989	221	▲ 2,656	0.18%
14	堺市	▲ 1,527	▲ 792	7,091	7,883	▲ 735	▲ 256	—	▲ 479	▲ 0.18%
15	静岡市	▲ 2,709	▲ 1,873	5,533	7,406	▲ 836	▲ 409	—	▲ 427	▲ 0.38%
16	新潟市	▲ 1,495	▲ 1,945	6,336	8,281	450	450	—	—	▲ 0.18%
17	札幌市	7,762	▲ 2,136	14,677	16,813	9,898	8,765	—	1,133	0.40%
18	九州市	▲ 3,697	▲ 2,581	8,133	10,714	▲ 1,116	▲ 1,080	▲ 1,089	1,053	▲ 0.38%
19	神戸市	▲ 1,507	▲ 2,586	12,437	15,023	1,079	2,597	—	▲ 1,518	▲ 0.10%
20	京都市	▲ 2,182	▲ 2,742	11,383	14,125	560	2,137	36	▲ 1,613	▲ 0.15%
21	大阪市	4,742	▲ 5,129	23,187	28,316	9,871	9,871	…	…	0.18%

\*大阪市の「市外との移動」に「市内移動」を含む。

### データチェック

平成25年1年間の川崎市の人口増加数は9,973人となっています。

自然増加数が4千人を超えているのは、川崎市と福岡市だけです。

# 3

## 年齢別人口

●生産年齢人口構成比は大都市で最も高く、平均年齢は最も低い

(単位:人)(平成22年10月1日)

都 市 名	総数	年齢階級別						平均年齢
		15歳未満	構成比	15~64歳	構成比	65歳以上	構成比	
1 川 崎 市	1,425,512	185,571	13.1%	988,540	70.0%	237,298	16.8%	41.5
2 福 岡 市	1,463,743	191,824	13.3%	997,884	69.1%	254,085	17.6%	41.9
3 相 模 原 市	1,045,986	136,832	13.3%	703,379	68.2%	191,722	18.6%	42.3
4 相 模 原 市	717,544	93,750	13.1%	481,281	67.5%	138,094	19.4%	42.8
5 さいたま市	1,222,434	166,926	13.8%	813,060	67.0%	233,564	19.2%	42.8
6 広 島 市	1,173,843	167,793	14.5%	755,983	65.5%	231,145	20.0%	43.1
7 横 浜 市	3,688,773	486,262	13.3%	2,440,385	66.6%	736,216	20.1%	43.4
8 熊 本 市	734,474	105,410	14.4%	468,350	63.8%	160,714	21.9%	43.5
9 岡 山 市	709,584	100,175	14.3%	450,108	64.2%	151,140	21.5%	43.6
10 名古屋	2,263,894	289,642	13.0%	1,463,977	65.8%	471,879	21.2%	43.8
11 東 京 都	8,945,695	946,290	10.8%	6,061,805	69.0%	1,771,978	20.2%	43.9
12 千 葉 市	961,749	123,972	13.3%	606,496	65.3%	198,850	21.4%	44.0
13 堺 市	1,913,966	117,750	14.0%	531,324	63.4%	189,318	22.6%	44.3
14 札 幌 市	1,913,545	224,212	11.7%	1,292,313	67.7%	391,796	20.5%	44.4
15 京 都 市	1,474,015	171,090	11.9%	935,200	65.1%	330,047	23.0%	44.6
16 浜 松 市	800,866	112,093	14.1%	499,213	63.0%	181,347	22.9%	44.7
17 大 阪 市	2,665,314	308,093	11.7%	1,734,432	65.7%	598,835	22.7%	44.8
18 大 神 戸 市	1,544,200	194,963	12.7%	980,959	64.1%	354,218	23.1%	45.0
19 新 潟 市	811,901	103,346	12.8%	516,311	64.0%	187,371	23.2%	45.3
20 静 岡 市	716,197	91,673	12.9%	444,745	62.4%	176,033	24.7%	45.9
21 北 九 州 市	976,846	126,391	13.0%	599,183	61.7%	244,860	25.2%	46.1

\*総数には年齢不詳を含む。

(国勢調査)

### データチェック

15歳未満(年少)人口の構成比が最も高いのは広島市で、次いで熊本市、15~64歳(生産年齢)人口の構成比が最も高いのは川崎市で、次いで福岡市となっています。また、65歳以上(老年)人口の構成比が最も高いのは北九州市で、最も低いのは川崎市となっています。平均年齢は、川崎市が最も低く41.5歳で、最も高いのは北九州市の46.1歳となっています。

# 4

## 就業者数

●労働力率は大都市で第2位

(単位:人)(平成22年10月1日)

都 市 名	15歳以上人口		労働力人口			非労働力人口	労働力率 B/A
	総数	うち労働力状態不詳を除く(A)	総数(B)	就業者	完全失業者		
1 東 京 都 区 部	7,833,783	6,587,656	4,365,163	4,111,983	253,180	2,222,493	66.3%
2 川 崎 市	1,225,838	1,034,871	673,411	638,433	34,978	361,460	65.1%
3 相 模 原 市	619,375	540,122	350,019	330,058	19,961	190,103	64.8%
4 名 古 屋 市	1,935,856	1,787,877	1,154,741	1,087,196	67,545	633,136	64.6%
5 福 岡 市	1,251,969	1,119,118	716,707	663,826	52,881	402,411	64.0%
6 浜 松 市	680,560	671,163	425,434	399,573	25,861	245,729	63.4%
7 広 島 市	987,128	934,862	590,733	557,475	33,258	344,129	63.2%
8 大 阪 市	2,333,267	1,992,460	1,257,298	1,143,389	113,909	735,162	63.1%
9 さいたま市	1,046,624	987,871	621,097	585,742	35,355	366,774	62.9%
10 熊 本 市	620,785	569,078	356,758	334,217	22,541	212,320	62.7%
11 横 浜 市	3,176,601	2,885,826	1,803,113	1,703,374	99,739	1,082,713	62.5%
12 静 岡 市	620,778	607,076	378,629	357,916	20,713	228,447	62.4%
13 千 葉 市	805,346	737,145	458,125	430,838	27,287	279,020	62.1%
14 新 京 都 市	1,265,247	1,171,213	727,184	680,855	46,329	444,029	62.1%
15 京 東 市	703,682	673,453	410,348	387,416	22,932	263,105	60.9%
16 岡 山 市	601,248	597,529	363,150	332,578	30,572	234,379	60.8%
17 堺 市	720,642	645,689	390,588	362,048	28,540	255,101	60.5%
18 仙 台 市	895,101	825,742	496,932	459,480	37,452	328,810	60.2%
19 札 幌 市	1,684,109	1,565,532	932,871	861,037	71,834	632,661	59.6%
20 北 九 州 市	844,043	797,609	460,697	425,369	35,328	336,912	57.8%
21 神 戸 市	1,335,177	1,240,387	715,817	665,482	50,335	524,570	57.7%

\*15歳以上人口総数には労働力状態不詳を含む。

(国勢調査)

### データチェック

就業者数が最も多いのは東京都区部で、次いで横浜市、大阪市の順で、川崎市は第9位となっています。労働力率が最も高いのは東京都区部で、次いで川崎市、相模原市の順となっています。

## 5

## 事業所(民営)

● 従業者300人以上の事業所の構成比は大都市で第3位

(単位:事業所)(平成24年2月1日)

都 市 名	総事業所数	従業者規模別事業所数				300人以上の構成比
		1人~29人	30人~299人	300人以上	出向・派遣従業者のみ	
1 東京都区部	498,735	459,914	33,889	2,535	2,397	0.508%
2 千葉県市	28,629	26,177	2,216	105	131	0.367%
3 川崎市	40,916	38,037	2,591	145	143	0.354%
4 横浜市	114,454	105,829	7,865	383	377	0.335%
5 大阪市	189,234	176,172	11,506	592	964	0.313%
6 福岡市	68,821	63,575	4,555	207	484	0.301%
7 さいたま市	40,692	37,576	2,847	114	155	0.280%
8 仙台市	45,845	42,493	2,935	128	289	0.279%
9 札幌市	74,335	69,166	4,599	194	376	0.261%
10 名古屋	121,778	113,155	7,676	312	635	0.256%
11 京都市	73,391	69,325	3,633	182	251	0.248%
12 相模原市	23,124	21,716	1,294	54	60	0.234%
13 神戸市	67,807	63,519	3,791	154	343	0.227%
14 熊本市	30,156	28,305	1,689	67	95	0.222%
15 北九州	43,288	40,660	2,416	95	117	0.219%
16 広島市	53,302	49,790	3,138	116	258	0.218%
17 浜松市	36,445	34,298	1,977	75	95	0.206%
18 堺市	29,198	27,248	1,752	60	138	0.205%
19 新潟市	35,817	33,495	2,055	71	196	0.198%
20 静岡市	36,579	34,531	1,826	71	151	0.194%
21 岡山市	31,318	29,236	1,847	52	183	0.166%

(経済センサス-活動調査)

## データチェック

事業所数は東京都区部が最も多く、次いで大阪市、名古屋市の順となっています。

また、事業所の従業者規模をみると、300人以上の事業所の構成比は東京都区部が最も高く、次いで千葉市、川崎市は第3位となっています。

## 6

## 工業(従業者4人以上の事業所)

● 製造品出荷額等、従業者1人当たり製造品出荷額等は大都市で第1位

(単位:事業所、人、百万円)(平成25年12月31日)

都 市 名	事業所数			従業者数	製造品出荷額等	従業者1人当たり製造品出荷額等
	総数	4~29人	30人以上			
1 川崎市	1,309	1,098	211	48,816	4,428,094	90.71
2 堺市	1,492	1,205	287	50,354	3,526,523	70.03
3 仙台市	532	423	109	15,756	1,015,213	64.43
4 千葉市	434	317	117	19,859	1,140,798	57.44
5 広島市	1,279	1,016	263	53,294	2,369,288	44.46
6 横浜市	2,580	2,080	500	93,095	4,104,710	44.09
7 神戸市	1,702	1,359	343	64,663	2,703,968	41.82
8 北九州	1,068	793	275	48,684	1,981,423	40.70
9 静岡市	1,547	1,302	245	45,623	1,751,664	38.39
10 名古屋	4,223	3,701	522	100,083	3,464,090	34.61
11 相模原市	956	766	190	34,977	1,153,869	32.99
12 京都市	2,364	2,054	310	61,370	2,014,012	32.82
13 岡山市	820	616	204	28,093	888,826	31.64
14 浜松市	2,143	1,694	449	71,193	2,130,271	29.92
15 新潟市	1,101	860	241	36,691	1,074,166	29.28
16 大阪市	6,043	5,306	737	121,453	3,485,277	28.70
17 さいたま市	1,015	854	161	26,795	738,808	27.57
18 福岡市	824	685	139	20,882	570,034	27.30
19 東京都区部	9,963	9,110	853	158,577	3,203,213	20.20
20 熊本市	502	399	103	18,686	373,841	20.01
21 札幌市	969	777	192	28,501	510,817	17.92

(工業統計調査)

## データチェック

製造品出荷額等が最も多いのは川崎市で、次いで横浜市、堺市の順となっています。また、従業者1人当たりの製造品出荷額等でも、川崎市は第1位と高い労働生産性を示しています。

## 7

## 商業

●1事業所当たり年間商品販売額は大都市で第10位

(単位:事業所、人、億円)(平成19年6月1日)

都 市 名	卸 売 業			小 売 業			1事業所当たり 年間商品販売額
	事業所数	従業者数	年間商品販売額	事業所数	従業者数	年間商品販売額	
1	東京都	41,921	747,804	1,612,152	77,302	561,786	133,238
2	京都市	12,853	167,439	270,656	19,759	153,086	31,917
3	名古屋市	21,675	283,346	427,526	31,521	197,855	45,479
4	大阪市	7,286	88,773	120,054	13,154	98,809	19,072
5	福岡市	4,745	53,363	69,230	8,012	71,362	12,682
6	仙台市	4,746	50,815	63,435	9,126	70,170	13,532
7	広島市	5,551	63,482	66,664	10,772	111,543	21,335
8	札幌市	1,692	22,140	26,004	5,476	55,834	11,207
9	さいたま市	2,576	30,926	34,732	7,028	65,076	12,609
10	川崎市	1,629	22,203	24,748	7,476	63,117	11,659
11	横浜市	5,634	66,299	60,688	20,398	182,313	37,194
12	岡崎市	2,390	26,054	19,795	5,968	43,991	8,599
13	新潟市	2,905	29,212	26,310	7,854	52,095	9,410
14	静岡市	2,926	26,129	25,311	7,571	45,665	8,072
15	浜松市	2,374	21,287	19,668	7,081	48,385	9,377
16	神戸市	4,625	46,600	40,654	14,607	99,619	17,964
17	熊本市	2,115	21,810	15,006	5,921	43,555	7,737
18	相模原市	1,082	9,033	6,963	4,076	36,616	6,132
19	京都市	5,726	57,590	35,553	16,834	110,389	20,137
20	堺市	1,512	14,708	10,005	5,767	44,289	7,828
21	北九州市	2,652	25,668	19,787	10,696	65,793	10,904

(商業統計調査)

## データチェック

卸売業では、事業所数、従業者数、年間商品販売額の3項目とも東京都区部が最も多く、次いで大阪市、名古屋市の順となっています。

小売業では、事業所数、従業者数、年間商品販売額の3項目とも東京都区部が最も多く、次いで大阪市、横浜市の順となっています。

また、卸売業と小売業の年間商品販売額を合せて算出した1事業所当たり年間商品販売額は、東京都区部が最も多く、次いで名古屋市、大阪市の順になっており、川崎市は第10位となっています。

## 8

## 貿易

●外国貿易海上輸出入額の総額は大都市で第7位

(単位:10億円、千トン)(平成25年)

都 市 名	外国貿易海上輸出入額			海上輸(移)出入貨物数量				
	総額	輸出	輸入	輸出	輸入	移出	移入	
1	名古屋市	16,310	11,058	5,252	57,982	82,630	34,931	32,698
2	東京都	15,513	5,474	10,039	13,147	35,348	14,247	23,291
3	横浜市	10,922	6,748	4,174	31,463	42,945	17,844	26,919
4	神戸市	8,164	5,216	2,948	21,618	27,318	16,472	22,945
5	大阪市	7,866	3,010	4,856	8,980	27,499	22,288	28,210
6	千葉市	5,886	1,093	4,793	179	1,400	364	755
7	川崎市	4,807	1,655	3,152	10,985	49,622	16,334	12,671
8	福岡市	2,894	1,858	1,036	6,504	11,406	3,709	10,633
9	堺市	2,789	514	2,275	702	21,886	8,575	7,775
10	静岡市	2,567	1,719	848	3,702	5,938	1,142	3,452
11	北九州市	2,465	1,166	1,299	7,526	26,190	32,348	34,463
12	広島市	1,424	1,118	306	4,045	1,911	2,051	3,597
13	仙台市	997	260	737	1,639	8,694	9,021	9,974
14	新潟市	821	119	702	1,339	16,444	6,775	8,923
15	岡崎市	490	65	425	11	—	251	1,173
16	京都市	146	112	34	—	—	—	—
17	熊本市	22	13	9	45	61	140	542
-	さいたま市	—	—	—	—	—	—	—
-	札幌市	—	—	—	—	—	—	—
-	相模原市	—	—	—	—	—	—	—

\*外国貿易海上輸出入額は税関別貿易額である。

(貿易統計)

(港湾調査)

## データチェック

外国貿易海上輸出入額の総額をみると、最も多いのは名古屋市で、次いで東京都区部、横浜市の順となっています。川崎市は第7位になっており、輸出額に比べて輸入額が多くなっています。

また、外国貿易を示す海上輸出入貨物数量では、輸出・輸入ともに名古屋市が最も多くなっています。川崎市は輸出量に比べて輸入量が多く、輸入量は名古屋市に次いで第2位となっています。

## 9

## 住宅

●民営借家に住む世帯の割合は大都市で4番目に高い

(単位:世帯)(平成22年10月1日)

都 市 名	住宅に住む 一般世帯	持ち家	借 家				間借り	持ち家 割合	民営借家 割合
			公営借家	都市機構・ 公社借家	民営借家	給与住宅			
1 福 岡 市	697,101	261,833	33,856	32,123	337,710	25,149	6,430	37.6%	48.4%
2 大 阪 市	1,297,733	547,849	105,777	40,527	564,260	24,663	14,664	42.2%	43.5%
3 東 京 都	4,467,330	1,974,012	179,837	140,479	1,928,585	163,227	81,190	44.2%	43.2%
4 川 崎 市	640,874	303,158	20,064	11,012	275,429	23,469	7,742	47.3%	43.0%
5 札 幌 市	879,156	425,249	30,397	7,917	376,805	20,693	18,095	48.4%	42.9%
6 仙 台 市	460,105	224,767	12,288	4,379	194,644	19,480	4,547	48.9%	42.3%
7 熊 本 市	299,076	151,985	19,265	992	113,156	10,351	3,327	50.8%	37.8%
8 岡 山 市	293,815	164,979	6,840	766	110,385	8,471	2,374	56.2%	37.6%
9 京 都 市	673,663	361,453	24,670	14,858	252,885	12,632	7,165	53.7%	37.5%
10 広 島 市	503,971	265,478	19,874	2,254	188,892	21,095	6,378	52.7%	37.5%
11 名 古 屋 市	999,950	474,499	75,586	29,827	372,125	37,790	10,123	47.5%	37.2%
12 相 模 原 市	298,519	177,348	6,450	6,223	97,777	6,686	4,035	59.4%	32.8%
13 北 九 州 市	413,200	223,404	34,163	14,279	124,490	12,063	4,801	54.1%	30.1%
14 さいたま市	493,840	301,470	10,878	8,071	148,083	20,073	5,265	61.0%	30.0%
15 横 浜 市	1,543,521	907,141	45,985	55,220	461,968	50,920	22,287	58.8%	29.9%
16 浜 松 市	295,800	187,848	8,053	1,410	87,339	7,994	3,156	63.5%	29.5%
17 静 岡 市	275,685	171,189	10,273	1,378	81,149	9,090	2,606	62.1%	29.4%
18 新 潟 市	310,412	204,268	6,920	377	89,135	6,604	3,108	65.8%	28.7%
19 神 戸 市	678,102	386,147	57,570	31,893	179,121	18,140	5,231	56.9%	26.4%
20 千 葉 市	397,617	237,736	13,121	30,665	98,734	13,756	3,605	59.8%	24.8%
21 堺 市	340,616	201,451	31,062	24,753	73,705	6,280	3,365	59.1%	21.6%

(国勢調査)

## データチェック

住宅に住む一般世帯のうち、持ち家に住む世帯の割合が最も高いのは新潟市で、次いで浜松市、静岡市となっており、川崎市は福岡市、大阪市、東京都区部に次いで4番目に低くなっています。

一方、民営借家に住む世帯の割合は、福岡市が最も高く、次いで大阪市、東京都区部、川崎市の順となっています。

## 10

## 消費者物価地域差指数

●消費者物価地域差指数(総合)は大都市で2番目に高い

都 市 名	平成23年平均 (51市平均=100)		平成24年平均 (51市平均=100)		平成25年平均 (51市平均=100)		平成26年平均 (全国=100)	
	総合	食料	総合	食料	総合	食料	総合	食料
1 東 京 都	106.3	106.0	106.0	105.0	105.9	104.9	106.1	103.9
2 川 崎 市	105.9	104.2	105.7	104.4	105.4	104.4	105.0	101.7
3 横 浜 市	107.1	106.0	106.7	105.8	106.0	105.9	104.8	103.5
4 さいたま市	102.3	102.1	102.9	102.3	103.3	102.5	103.0	102.2
5 京 都 市	101.8	100.5	101.5	100.5	101.2	100.7	101.3	100.9
6 神 戸 市	101.9	102.7	102.3	102.7	102.2	102.4	101.3	102.4
7 大 阪 市	101.0	100.6	100.6	101.2	100.6	100.6	101.2	100.6
8 堺 市	100.3	101.4	100.7	101.2	100.6	101.3	100.6	101.7
9 千 葉 市	99.1	101.0	99.2	100.1	99.1	101.0	100.0	100.3
10 名 古 屋 市	99.3	98.8	99.7	99.8	99.1	98.4	99.9	100.1
11 静 岡 市	99.3	98.6	99.7	99.3	100.0	99.2	99.3	99.6
12 岡 山 市	100.4	100.1	100.7	101.0	100.3	100.3	99.1	101.8
13 新 潟 市	98.7	97.7	98.6	98.6	99.1	98.9	99.9	99.5
14 新 熊 本 市	100.1	101.3	100.6	101.2	100.0	99.8	98.9	101.2
15 札 幌 市	99.0	95.6	99.3	96.7	100.2	97.9	98.7	99.5
16 広 島 市	101.7	101.9	101.2	101.1	99.8	101.3	98.5	100.7
17 仙 台 市	97.7	97.7	97.8	97.1	98.3	97.6	98.4	97.4
18 浜 松 市	97.5	96.6	98.1	97.2	98.4	97.2	98.8	98.4
19 福 北 市	97.4	95.8	97.4	94.9	97.5	94.7	97.7	95.7
20 北 九 州 市	96.6	97.6	96.7	97.6	96.6	97.4	97.1	98.3
一 相 模 原 市	...	...	...	...	...	...	...	...

\*51市とは都道府県庁所在地市(東京都については東京都区部)及び政令指定都市(川崎市、浜松市、堺市及び北九州市)である。

\*平成26年から全国の平均を基準(=100)とした年平均の指数となっている。

## データチェック

平成26年の消費者物価地域差指数(全国平均を100とした場合の地域ごとの年平均指数)をみると、総合では東京都区部が最も高く、次いで川崎市、横浜市の順となっており、食料においても東京都区部が最も高く、次いで横浜市、神戸市と続き、川崎市は堺市と共に6位となっています。

また、平成26年平均の総合で全国平均を下回っているのは、名古屋市、静岡市、岡山市など11市となっており、食料では静岡市、新潟市、札幌市など7市となっています。

# 11

## 市民経済計算

●1人当たり市民雇用者報酬は大都市で第2位

(単位:百万円)(平成24年度)

都 市 名	市 民 所 得				雇 用 者 報 酬 割 合	財 産 所 得 割 合	企 業 所 得 割 合	1人当たり市民雇用者報酬(千円)
	総 額	雇 用 者 報 酬	財 産 所 得	企 業 所 得				
1 東 京 都	58,515,600	34,908,977	4,691,628	18,914,995	59.7%	8.0%	32.3%	6,331
2 川 崎 市	4,234,874	3,250,494	196,479	787,901	76.8%	4.6%	18.6%	5,766
3 名 古 屋 市	7,460,557	5,136,722	359,438	1,964,397	68.9%	4.8%	26.3%	5,653
4 大 阪 市	8,108,890	5,214,046	1,009,164	1,885,680	64.3%	12.4%	23.3%	5,508
5 千 葉 市	3,798,450	2,267,149	184,395	1,346,906	59.7%	4.9%	35.5%	5,215
6 千 葉 市	2,668,011	1,979,411	212,376	476,225	74.2%	8.0%	17.8%	4,941
7 さいたま市	3,892,739	2,710,760	161,916	1,020,063	69.6%	4.2%	26.2%	4,937
8 富 山 市	4,975,209	3,011,143	272,362	1,691,704	60.5%	5.5%	34.0%	4,926
9 北 九 州 市	2,497,688	1,761,684	117,804	618,199	70.5%	4.7%	24.8%	4,629
10 神 戸 市	4,636,687	2,905,862	305,057	1,425,769	62.7%	6.6%	30.7%	4,514
11 横 浜 市	10,931,217	7,655,827	577,348	2,698,042	70.0%	5.3%	24.7%	4,503
12 京 都 市	4,643,933	2,517,129	200,371	1,926,433	54.2%	4.3%	41.5%	4,462
13 京 都 市	3,664,695	2,267,812	160,411	1,236,472	61.9%	4.4%	33.7%	4,320
14 岡 山 市	2,273,912	1,444,849	117,690	711,373	63.5%	5.2%	31.3%	4,153
15 新 潟 市	1,949,312	1,264,522	107,466	577,324	64.9%	5.5%	29.6%	4,097
16 札 幌 市	5,126,692	3,530,908	312,120	1,283,664	68.9%	6.1%	25.0%	4,082
- 静 岡 市	...	...	...	...	...	...	...	...
- 堺 市	...	...	...	...	...	...	...	...
- 浜 松 市	...	...	...	...	...	...	...	...
- 相 模 原 市	...	...	...	...	...	...	...	...
- 熊 本 市	...	...	...	...	...	...	...	...

### データチェック

市民所得総額をみると東京都が最も多く、次いで横浜市、大阪市の順となっており、川崎市は第9位となっています。1人当たり市民雇用者報酬は東京都が最も多く、次いで川崎市、名古屋市の順となっています。

また、雇用者報酬割合をみると川崎市が最も高く、次いで千葉市、北九州市の順となっています。

# 12

## 治安及び災害

●人口10万人当たりの交通事故発生件数が最も少ない

(単位:件)(平成25年)

都 市 名	交 通 事 故 発 生 件 数		刑 法 犯 認 知 件 数 及 び 検 挙 件 数		
	総 数	人口10万人当たりの交通事故発生件数	認知件数	検挙件数	人口1,000人当たりの認知件数
1 川 崎 市	4,000	276.2	11,312	3,778	7.8
2 東 京 都	27,356	301.9	119,253	31,030	13.2
3 札 幌 市	6,196	320.0	20,505	7,185	10.6
4 横 浜 市	12,248	330.8	30,323	11,096	8.2
5 千 葉 市	3,689	382.7	14,255	3,667	14.8
6 新 潟 市	3,208	396.1	7,785	2,447	9.6
7 さいたま市	5,413	435.3	14,643	4,575	11.8
8 相 模 原 市	3,241	449.8	6,515	2,422	9.0
9 仙 台 市	4,853	454.2	10,220	2,799	9.6
10 京 都 市	7,018	477.2	21,326	4,515	14.5
11 京 都 市	5,903	498.9	11,461	4,221	9.7
12 熊 本 市	3,901	527.5	6,615	1,845	8.9
13 大 阪 市	14,556	542.4	63,213	12,174	23.6
14 神 戸 市	8,547	555.1	20,071	6,076	13.0
15 堺 市	4,733	562.9	20,507	2,106	24.4
16 名 古 屋 市	15,902	700.1	40,477	11,105	17.8
17 福 岡 市	12,643	839.3	23,399	7,273	15.5
18 静 岡 市	6,514	917.9	6,123	1,917	8.6
19 北 九 州 市	8,949	924.4	13,986	4,436	14.4
20 岡 山 市	6,605	925.8	9,471	2,857	13.3
21 浜 松 市	9,039	1,139.2	6,375	2,289	8.0

\*交通事故発生件数は、道路交通法の「道路上」での法規違反による事故数を集計したものである。

\*検挙件数は、発生地計上によるものである。

\*平成25年10月1日現在の人口で算出

### データチェック

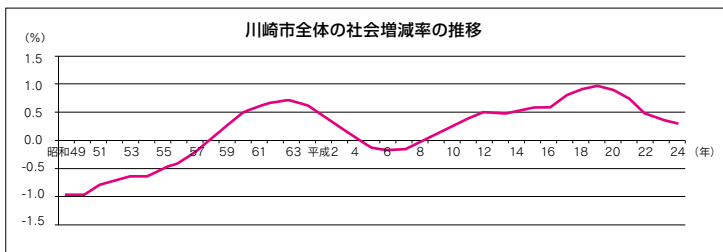
人口10万人当たりの交通事故発生件数は川崎市が最も少なく、次いで東京都都区部、札幌市の順となっています。また、人口1,000人当たりの刑法犯認知件数も川崎市が最も少なくなっています。



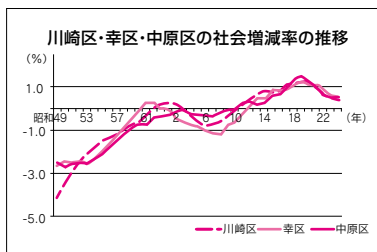
川崎市の人口は、政令指定都市に移行した昭和47(1972)年の99万2,923人から増加し、平成27(2015)年5月には147万人超が暮らす大都市となりました。その背景には、他地域からの転入超過による社会増があります。そこで、社会増減率の5年ごとの移動平均値を出し、推移を各区で見ってみました。

社会増減率が最も高い時期に、それぞれの区ではどのようなことが起きていたのでしょうか。それぞれ見ていきます。

\*グラフの表示は5年ごとの平均の数字を表しています。(例)平成24年の値→平成22~26年の平均値の数字



### ◎南部3区(川崎区、幸区、中原区)は平成18年前後がピーク



#### 川崎区・幸区→工場跡地に大型共同住宅が次々建設

かつての東芝の工場跡地に平成18(2006)年、「ラゾーナ川崎プラザ」がオープンするなど、川崎駅周辺の幸区堀川町、大宮町などで人口が増えました。また、川崎区小田栄、幸区塚越などの他の工場跡地にも次々に大型共同住宅が建設され、人口が急増しました。

#### 中原区→武蔵小杉駅の利便性向上

平成17(2005)年に横須賀線武蔵小杉駅設置の基本覚書を市とJR東日本で締結し、開発に拍車がかかり、工場跡地や大企業のグラウンド跡地などに大型共同住宅が建設され、武蔵小杉駅周辺の人口が急増しました。

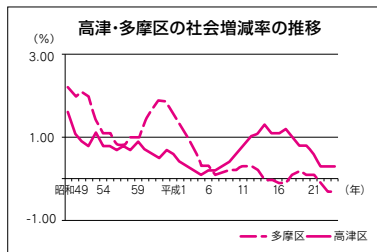
### ◎分区分前の2区(高津区、多摩区)は政令指定都市移行後(昭和47年)がピーク

#### 高津区→都心部へのアクセス向上に伴い住宅団地建設が進む

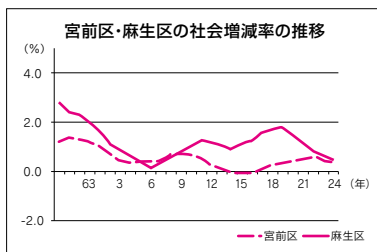
昭和41(1966)年に東急田園都市線が溝の口駅から長津田駅へ延伸され、昭和30年代から続く沿線開発がさらに進みました。大規模住宅団地も相次いで建設され、野川や子母口・子母口富士見台で人口が急増しました。昭和57(1982)年に区西部は宮前区へ分区分区されます。

#### 多摩区→縦横に走る交通機関を活かした宅地開発が進む

昭和30年代から続く小田急沿線の宅地開発が進み、王禅寺や生田で人口が増加しました。昭和57(1982)年に区西部は麻生区へ分区分区されます。



### ◎分区分で生まれた2区(宮前区、麻生区)は誕生(昭和57年)直後がピーク



#### 宮前区→人口急増中に誕生、以後も開発続く

東急田園都市線の沿線開発に伴い、東京のベッドタウンとして農地が宅地へと次々変わっていき、区内3駅(宮崎台、宮前平、鷺沼)周辺の人口が著しく増加しました。

#### 麻生区→新百合ヶ丘駅の開発とともに発展

昭和49(1974)年に新百合ヶ丘駅が開業し、駅周辺の土地区画整理事業が始まり、開発が進む中、昭和57(1982)年に麻生区は誕生し、小田急線の沿線開発とともに人口が急増しました。